

【第4回飯岡保育園保護者説明会】

- ◆ 日 時 平成23年9月17日（土） 14時5分から14時55分
- ◆ 場 所 飯岡保育園
- ◆ 出席者 飯岡保育園入所児童保護者17名
- ◆ 内容等

市⇒ 市役所

保⇒ 保護者

本⇒ 社会福祉法人 本宮福祉会

児童福祉課長あいさつ，市役所出席職員紹介

【飯岡保育園移管先法人の選定経過と結果について説明】

市： 飯岡保育園移管先法人選定委員会は、6名の委員で構成され、平成23年5月26日に第1回、平成23年7月26日に第2回、平成23年8月19日に第3回の委員会を開催した。

第1回の飯岡保育園移管先法人選定委員会では、移管先法人候補者選定要領等を協議した。

平成23年5月末に募集要項を作成し、県内の応募要件に該当する127法人（社会福祉法人125法人及び特例財団法人2法人）に対して発送した。

平成23年6月12日に県内2法人が参加し、飯岡保育園施設見学及び説明会を開催した。

平成23年6月13日から平成23年7月12日の1か月間を公募期間とし、県内2法人から申込みがあった。

第2回飯岡保育園移管先法人選定委員会では、申込法人が運営している保育園を見学し、また申込書類について意見交換等を行った。

第3回の8月19日の飯岡保育園移管先法人選定委員会では、申込法人の代表者と実際に運営している保育園長から聴き取りを行い、申込書類と併せて審査を行った。その結果、移管先法人候補者として社会福祉法人本宮福祉会が選定された。

最終的には平成23年8月22日に市長の決裁により移管先法人と決定した。

【社会福祉法人 本宮福祉会 紹介】

市： 移管先法人を紹介する。

移管先法人の社会福祉法人本宮福祉会は、所在地が盛岡市西仙北一丁目36番10号、代表者は理事長鎌田広基で、第二種社会福祉事業として、保育所の台太郎保育園となかの保育園を運営している。また、一時預かり事業及び地域子育て支援拠点事業をなかの保育園で実施している。

事業開始について、昭和50年に本宮ベビーホームを開園し、平成3年4月に台太郎保育園に名称変更を行っている。平成21年に当時の盛岡市立なかの保育園を第1次民営化

の二つ目の施設として運営開始した。同じく平成21年から一時預かり事業と子育て支援センターを実施している。

台太郎保育園は法人の所在地と同じで、定員90名で運営している。受入年齢は0歳児から5歳児まで、特別保育は20時までの延長保育を実施している。

なかの保育園は所在地が盛岡市東安庭一丁目13番35号で、定員が120名である。盛岡市立当時は定員90名だったが、民営化に伴い30名定員を増やしている。受入年齢が0歳児から5歳児までで、盛岡市立当時の1歳児から受入枠を広げている。特別保育は、延長保育を20時まで、一時預かり事業、病児・病後児保育事業（体調不良児型）、子育て支援センターを実施している。

保育理念として「大きな家族の無償の愛」とうたっている。

保育方針は4点掲げており、

- ・なごやかな雰囲気の中で、子どもの良さを認め、子どもとの丁寧な関わりに努める。
- ・自分らしさを発揮し、よく遊ぶことを大事にする。
- ・子どもも喜び、保護者も喜び、職員も満足する環境の中で、未来を背負う子どもたちの育成に貢献する。
- ・家庭、地域・社会と共有し、「健康・安全・情緒」を安定させ子どもたちの健全な心身の発達を図る。

以上である。

市： それでは、移管先法人と決定した社会福祉法人本宮福祉会の理事長、鎌田広基にあいさつをお願いします。

本： 初めまして。今回、ご縁があって、今日の次第となりました。

紹介のとおり、我々はそれなりの長い歴史を持っている。民営化も1件の経験がある。必ずしも最初からうまくいったわけではない。色んな苦労があったが、幸い、2年経過し非常に落ち着き、皆様のご支援とご理解を頂戴して、うまく運営していると自負している。

あらかじめ頂戴した皆様の質問事項を拝見した。もちろん色んな不安や意見があると思うし、我々も自分たちのやり方をすべて踏襲してここを運営するとは到底思っていない。また、そんなことは出来ないと思っている。その地域のそれまでの習慣・風習などがあり、色んなことをお聴きし、相談の上でやっている。現在も毎日が一定のことをするのではなく、より良いものにしようということで皆で頑張っている。

それなりの今お話ししたような経験を持っているので、出来れば、これからご協議いただき、良いものにさせていただきたいと思っている。

簡単ではあるが、ごあいさつとさせていただきます。

市： 続いて、なかの保育園長の中村ミサ、台太郎保育園主任保育士の中釜良子から一言ずつあいさつをいただきたいと思います。移管後は飯岡保育園の園長及び主任保育士となる予定である。

本： なかの保育園の園長の中村と申します。よろしくお願いいたします。

ご縁があり、大切なお子さんを私どもがお預かりさせていただくことになった。誠心誠意、一生懸命職員一丸となって頑張っていくことはもちろんだが、何事も先ほど理事長が話したように、保護者の方々とか保護者役員の方々と話し合いの上決定していきたいと思っている。どうぞよろしくお願いいたします。

本： 台太郎保育園の主任保育士中釜良子と申します。よろしくお願いいたします。子どもたちはもちろん、保護者の方々から力をお借りして、安心できるような保育をしたいと思っている。どうぞよろしくお願いいたします。

【三者懇談会及び今後のスケジュールについて説明】

市： 1「三者懇談会の開催について」である。三者というのは、飯岡保育園の保護者の皆様、それから移管先法人である社会福祉法人本宮福祉会、そして市児童福祉課のことである。移管後のより良い保育所運営を行うために、三者による懇談会を定期的で開催し、意見交換をすることで、信頼関係を醸成するものである。また、保育に関することや、行事、給食、安全衛生、保護者負担金についても話し合いをしていく。

2「今後のスケジュール案」についてである。本日平成23年9月17日は、平成21年度の第1回から数えて第4回目の保護者説明会である。この後、市で飯岡保育園移管計画のたたき台を作成し、来月下旬に開催したいと考えている第1回の三者懇談会でお示ししたい。また、この第1回でお示しするたたき台について、第2回、第3回の懇談会で話し合いをしていきたいと考えている。開催時期は平成23年12月上旬、平成24年1月下旬頃と考えているが、第2回以降の開催時期は、皆様の都合と懇談会での話し合いの進み具合で変わってくるが、第4回の三者懇談会は3月の下旬頃を予定しており、4月から派遣される引継保育士の紹介等を考えている。

平成24年4月1日から引継保育が開始する。そこで、平成24年5月中旬頃に意見交換等を行う目的で第5回の三者懇談会を予定している。また、引継保育が始まり3か月経過したところで、保護者アンケートを考えている。その結果の報告と、10月からの新しい派遣保育士の紹介を兼ねた第6回の三者懇談会を平成24年9月下旬に予定している。平成25年の3月の下旬には第7回の三者懇談会として、移管後の飯岡保育園に勤務する職員の紹介を予定している。

資料では移管までのスケジュールだが、三者懇談会は移管後も必要に応じて開催していくものである。以上である。

【質疑応答】

市： 初めに、事前に保護者の皆様から事前にいただいた質問に回答させていただく。

市： 事前に質問等をいただいたが、資料には同じような内容をまとめて掲載した。

- ・ 民営化後の保育サービスについて

市： 新しい保育サービスの質問をいただいた。今は19時までの1時間延長だが、20時までの2時間延長保育と、地域子育て支援センターを実施することになっている。

- ・ 台太郎保育園のように新生児クラスを細かく分ける予定があるか

本： 0歳について、従来通りのクラス編成とするが、0歳児の中には産休明けから1歳になった子までいる。今まで、年齢や発達によって小グループに分けて保育した方が子どものためにもいいと思ってやってきたので、そのようになると思う。

- ・ 私立ということで、指定のバッグや制服の購入があるのか

本： ありません。

- ・ なかの保育園を民営化した際の引継保育について

市： なかの保育園に限らず民営化では、引継書を毎回作成し書面で引継ぎを行うとともに、引継保育で主任保育士とクラス担当保育士を派遣していただき、実際にクラスで保育をしながら実務を引継ぐことにしている。4月からと10月から、1年または半年間クラスに入って今の飯岡保育園の保育士と一緒に保育を行うので、入所児童にも派遣保育士に慣れていただく期間と考えている。

本： 必ず実施すべきことはどこの保育園でも決まっている。年間計画をきいたが、ほとんど同じだと感じた。

- ・ 職員の募集方法、なかの・台太郎保育園からの人事異動について

本： 来年度は引継保育で台太郎となかのの職員を何名か派遣するので、人事異動はある。職員募集について、基本的には法人としての採用試験を実施している。

なかの保育園の民営化を経験し、今の臨時保育士の方がそのまま飯岡に残ってもらえると一番いいと思う。子どもも保護者も知っており、前はどうだったかも教えてもらえる。無理にということとはできないが、希望してもらえるとありがたいと思っている。

- ・ 現在のなかの保育園は定員を大幅に上回る在園児がいるが、民営化後は飯岡もそうなることが考えられるのか

市： 盛岡市内では、ここ数年、新規開設や定員増員した保育園が複数あるにもかかわらず、残念ながら待機児童が発生している状況である。定員を超えて児童を受け入れている保育園も数多いが、いずれも最低基準という保育園を運営していくうえでの基準の許容範囲内で対応可能な人数を受け入れていただいている。保育園の入所については、毎月その状況を見ながら各保育園から受け入れ可能人数を報告していただいた中で、市で入所選考をしており、そのやり方は飯岡保育園が民営化した後も変わりません。

- ・ 民営化後の行事について

市： 保育園の民営化に関して、基本的には今の飯岡保育園の保育をそのまま引き継いでいただくことでやっているものであり、その中には当然行事も含まる。

もし、変更等や本宮福祉会独自の行事をこちらでも実施したいということなどは、事前に保護者の皆様と十分協議し了承のうえで検討していただくことになる。

- ・ 現在、園で使用している備品や玩具等の取扱いについて

市： 現在飯岡保育園で使用している備品等の中には、飯岡保育園単独で使用しているものと、公立保育園全体で共有しているものがある。飯岡保育園単独で使っているものについては、移管後も飯岡保育園の備品として継続して使用する。

・ 民営化後の保育について

市： 先ほど行事のところでも話したが、民営化では、現在の飯岡保育園をそのまま引き継いでいただくことを基本としている。

- ・ 今の飯岡保育園の良さを壊すことなく、よりよい保育園になることを期待しています。
- ・ 民営化で一番不安なのは、先生が変わることです。子どもたちのことをもっともっと真剣に考えて、先生方とのお別れなんてなくなる状況を作っていただきたいです。

市： こちらはご意見として受け取った。先生の異動に関しては、今までも公立の保育園として、毎年必ず定期人事異動があった。今回の民営化で現在の職員は他の公立保育園に異動になるが、お子様への影響を少しでも少なくするため、引継保育を1年間、4月から始めたいと考えているものである。

また、公立も私立も子どもが一番大事ということには変わりない。今後、三者懇談会などで十分に話し合っていきたい。

市： それでは、今までの説明と回答について、ご意見やご質問をいただきたい。

保： 2点ほどお聞きしたい。

年間行事について、具体的になかの保育園・台太郎保育園とどう違うのか、独自行事や違うことがあれば教えていただきたい。

来年度の具体的な派遣保育士の人数を教えてください。

本： 来年度の引継保育士は、4月からは主任保育士を入れて4人、後期は3人である。

行事は基本的にどの保育園も同じだが、保護者会の役員会で話し合って新たに始めた内容をお話する。

体操教室、国際交流、ハロウィンパーティ、ふれあいランドのプール利用、お茶会、フリー参観（昼食体験、個別面談説明等含む。）、お花見ピクニック、プラネタリウム鑑賞、フリーマーケット、マリオスでの影絵鑑賞、社会見学（電車体験）、人形劇、クリスマス会、パフォーマンス会（発表会）、お正月遊びの会。

なかの保育園は、地域交流がすごく盛んだと感じている。色んなところに声をかけていただいたり、改めて交流が大事だなと感じている。

市： 2点目の保育士の件だが、今年度の本宮保育園の例でいうと、4月に主任保育士にフリーという形で入り、他に0歳・2歳・4歳児に担任として市の職員と一緒にクラスに入っている。この方々は1年を通してそのクラスにいて、次の年に持ち上がることを前提にしている。その他に10月に3名来ていただき、1歳・3歳・5歳と、ここで全クラスに入る流れにしている。飯岡保育園についても、これから保育園の移管計画というたたき台を作り、保護者の方にお示しする。その中で人員配置についてもお話していきたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

市：他に何かないか。では、ここで一旦締め切らせていただく。

なお、入口のところに意見箱があるので、後で質問等があれば、入れていただきたい。
よろしく願いしたい。

【その他】

市：本日の説明会の資料、内容は後日、市のホームページに掲載する予定である。

また、次回保護者の方々に集まっていただく予定は、先ほどの説明のとおり、第1回の三者懇談会になる。日程等は保護者会長と相談しながら決めたいと考えているので、よろしく願いしたい。

それでは、以上をもちまして第4回飯岡保育園保護者説明会を閉会する。どうもありがとうございました。